

2021年12月12日（日）／説教者：國分美生

説教：「神はわれらと共に」

聖書：マタイによる福音書1：18～25

マリアが身ごもっていることを知った時、正しい人＝律法を重んじる人ヨセフは、マリアを「さらし者にしたくなかったので」ひそかに縁を切ろうと考えました。ユダヤの律法によれば姦淫の罪は死刑に当たる重い罪です。マタイはヨセフを、律法に忠実に従う思いと、マリアの今後を心配する思いとの間で揺れ動いている者として描こうとしているように見えます。だからこそ主のみ使いはヨセフの夢に現れ「お前の妻、マリアを受け入れることを恐れるな」と告げました。

マタイはイエスの誕生の意味として、イザヤ書からの引用を記します。「見よ、乙女が身重になって男の子を生むであろう。そして人々はその名を『インマヌエル』と呼ぶであろう」この名は訳すれば、「神われらと共に」という意味である。」ヨセフがみ使いに言われた通りマリアを受け入れることが出来たのは、生まれてくる子どもが、イスラエルが長い間待ち望んでいた救い主である、というお告げを信じる事が出来たからでしょう。このようにしてヨセフは恐れから解放される体験をしました。

マタイ福音書は「われら」とは誰のことかという問いも投げかけます。イエスは誕生後、ガリラヤのナザレで育ちますが、そこは旧約聖書において「異邦人のガリラヤ」と呼ばれる土地です。教会の中だけではなく、すべての人と共におられる救い主の姿が私たちの心に刻まれます。

この年末普天間教会は、森雅寛さんの提案を受けて貧困の支援を企画しています。具体的には保存のきく食料の配布や、無料の生活相談などを行う予定です。新型コロナのために沖縄全体が経済的にダメージを受け、困窮している人が増えています。クリスマスからお正月、年末年始にかけて全国的に、自死する方が多いという統計もあります。苦しく、追い詰められている人にとって「何がクリスマスおめでとうだ」という思いがあるでしょう。私たちがこの冬行おうとしているのはイエス・キリストを証しする行為です。救い主が神を信じる者も信じない者も含めたすべての人の救い主であることを知っている私たちは、教会の外に目を向けたとき、そこで救いを求める人のために忙しく立ち働いているキリストの姿を見るでしょう。その時、私たちは恐れから解放されて、神の働きに参加していくことが出来るでしょう。この世界が丸ごと神の国になっていくために、自分に何かできることはないかと思いめぐらせる、私たち教会でありますように。

（國分美生）